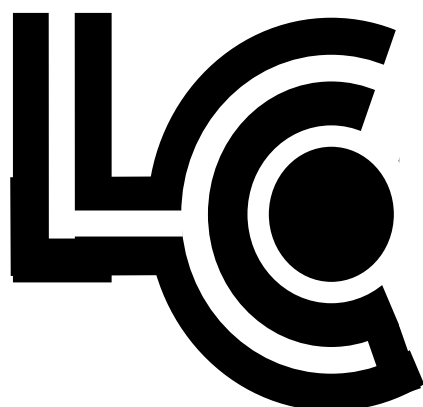


令和7年度(2025年度)

成果と課題



横須賀市教育研究所

担当	【研修・調査研究担当】一研修一																						
目標と方針	<div>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る</div> <div>(1) 基本研修において、経験年数に応じた資質・能力及び指導力の向上を図る</div> <div>(2) 選択研修において、学力の向上に向けた教師の授業力向上、教育課題、学校づくりなど系統的な研修講座を提供する</div> <div>2 学校組織の活性化と人材育成を図る</div> <div>(1) 各学校において組織的、計画的な人材育成が図れるよう、基本研修において OJT を推進するとともに、職に応じた研修において学校運営や人材育成に係る実践的な研修内容を充実させる</div> <div>(2) 各学校において協働性を生かした校内研修・研究が推進されるよう積極的な訪問支援研修を行う</div> <div>【具体的な活動】</div> <div>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る研修</div> <div>喫緊の教育課題に応じた研修、コミュニケーション能力の向上、指導力向上を図る研修などを実施する</div> <div>2 学校組織の活性化と人材育成を図る研修</div> <div>職に応じた研修や、学校づくり、あるいは訪問支援研修を実施する</div>																						
成果	<div>1 教師として求められる資質・能力、指導力の向上を図る</div> <div>(1) 基本研修</div> <div>・すべての基本研修において、「授業力」「課題解決力」「人格的資質・情熱」の3つの資質・能力の向上を目的として、「授業づくり・ICT活用・支援教育・セルフマネジメント・人権教育・服務」について系統的に研修に取り入れ実施した。研修の振り返りは全国教員研修プラットフォーム（Plant）を活用し、振り返りの共有・分析等を行った。</div> <div>・教科等指導員、学校体育指導員の授業参観・研究協議への参加（1年研・5年研）、フロンティア研究校やチャレンジ研究校、市外学校の公開授業への参加（2年研・中堅研）を年間の研修に位置づけ、横須賀市内の各教科の優れた授業実践や、学校全体としての校内研究での取組を学ぶ機会を設定し、各学校での実践に活かせる内容を設定した。</div> <div>・指導主事が研究授業を参観し振り返りを行うことで、具体的な授業づくりについて実践的に学ぶ機会を保障することができた。（初任者研修・中堅教諭等資質向上研修）</div> <div>(2) 選択研修</div> <div>・本年度も、教育課題・学校のニーズに合わせた研修を設定し、自身の経験年数やキャリアに応じた研修を選択できる機会を設定した。</div> <div>★夏季研修受講者数と評価</div> <table><tr><th>年度</th><th>研修実施回数</th><th>参加者数 (延べ人数)</th><th>評価平均</th></tr><tr><td>令和4年度</td><td>65回</td><td>2,424人</td><td>3.75</td></tr><tr><td>令和5年度</td><td>61回</td><td>2,847人</td><td>3.66</td></tr><tr><td>令和6年度</td><td>64回</td><td>3,276人</td><td>3.73</td></tr><tr><td>令和7年度</td><td>67回</td><td>3,027人</td><td>3.75</td></tr></table>			年度	研修実施回数	参加者数 (延べ人数)	評価平均	令和4年度	65回	2,424人	3.75	令和5年度	61回	2,847人	3.66	令和6年度	64回	3,276人	3.73	令和7年度	67回	3,027人	3.75
年度	研修実施回数	参加者数 (延べ人数)	評価平均																				
令和4年度	65回	2,424人	3.75																				
令和5年度	61回	2,847人	3.66																				
令和6年度	64回	3,276人	3.73																				
令和7年度	67回	3,027人	3.75																				

	<p>2 学校組織の活性化と人材育成を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本研修では、研修での学びや自身の実践を発信できる場として、「校内での還元研修」を研修に位置付けた。また、経験年数が異なる受講者同士がペアを組み1年間の研修を進める機会を設定した。 ・中堅教諭・中堅養護教諭等資質向上研修で提出される人材育成レポート〔OJT 実践報告書〕からは、「授業参観・校内研究・学年会議・児童生徒指導を通した人材育成」というテーマを掲げ、日常的に行われる業務と関連付け、人材育成を図ろうとする実践が多く見られた。 ・学校訪問時の振り返りでは、中堅教諭からは「話しやすい・相談しやすい雰囲気」等、職場の環境を整え、学びやすい雰囲気を作ろうとする取り組みが多く聞かれ、初任者は「職場の先輩方に助けていただいている。感謝している」という言葉が多く聞かれた。経験年数の少ない教員に対して、学校全体で相談しやすい雰囲気を作り、校内全体で人材育成に取り組んでいる様子が伺える。 ・教職20年経験者研修、学校運営研修、新任総括教諭研修、中堅教諭等資質向上研修、教職5年経験者研修では、研修内でOJTに関すること学校運営への参画に触れている。
課題	<p>○ 研修受講履歴・生成AIによる振り返り分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度からPlantの運用が始まり、研修資料（配付資料、動画等）の確認や振り返りの提出については、スムーズに運用できたと感じている。今後は、Plantを利用した研修での学びの蓄積が効果的に活用できるよう、活用方法を探っていく。 ・11月に学校長を対象として行った「受講奨励に関するアンケート」から、各教員への受講奨励については「今後進めていく」という回答が多く見られた。研修受講者が主体的に研修に参加する働きかけを研修内で触れていくとともに、学校管理職からの適切な助言のもと研修が選択できるよう、受講奨励に関する事例を提供できるよう検討を進めていく。 ・研修で行った振り返りについては、生成AIを活用し、振り返りを分析する検証を進めている。分析・まとめた資料については研修内で触れるとともに、学校に対して周知することで、研修での成果・課題を把握してもらうことができる。検証を進め、学校へよりよい形で提供できるよう検討していく。 <p>○ OJTの促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度は、基本研修受講者の学校（1校）へ指導主事が訪問し、学校でのOJTの取組を参観した。今後、参観を含めて広く各学校からの情報収集に努め、効果的なOJTの促進について研修内での報告等、情報を積極的に発信していくことを心がける。

担当	【研修・調査研究担当】－理科教育－
目標と方針	<p>3 理科研修や資料提供を通し、教師の授業力向上及び学習環境づくりに寄与し、理科教育の充実を図る</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>3 理科の学習環境の充実</p> <p>(1) 理科教育研修講座（教員対象の理科関係研修講座 年間13回）の実施</p> <p>(2) 児童生徒の学習意欲を向上させる観察・実験のための理科室整備</p> <p>① 実験観察教材・情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物教材（微小生物、メダカ等）の維持管理提供を行う ・生物教材（種ジャガイモ、サツマイモ苗、カイコ、キャベツ苗等）の斡旋、提供を行う ・実験教材の研究開発、情報提供、理科教材（常設）の展示を行う ・理科実験室、理科機器の貸し出しを行う ・実験観察に関する情報提供・協力を行う <p>② 教育情報センターホームページ内の理科関係データ更新・追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット 「理科なび」 ・インターネット 「三浦半島の植物」「三浦半島の地層・地質」「三浦半島の野鳥」 <p>③ 「薬品管理マニュアル」（令和2年3月改訂）の周知と活用を進める</p> <p>④ 学校が保管する薬品の管理状況の調査及び指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の薬品保管状況の視察・及び指導・助言の実施 ・「学校が保管する薬品の管理状況の点検および報告」の実施 <p>(3) 教員の指導力および児童生徒の学力向上を図る事業の実施</p> <p>① サイエンスサマーの実施</p> <p>② 土曜科学教室の実施</p>
成果	<p>(1) 理科研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理科基礎技術研修講座6回と科学教養講座2回実施した。研修では、実践を踏まえた内容の研修を中心に行った。受講者からは、「教師が子どもに知識を教えるだけでなく、子どもが自分で問いを立てて実験方法を考えるような主体的な学びを大切にしたい」、「先駆者達が先端技術をあきらめずに研究してきたおかげで今があることを感じた」等、理科教育の基本について理解を深められた内容の感想があった。 ・小学校・中学校理科教材研究講座を2回実施した。研修では、理科教材をどのように授業で活用していくとよいか実演を交えながら研修を行った。受講者からは、「実験方法や実験器具の用意の仕方について考えられた。予備実験は大切だと感じた。」等、教材研究に対する前向きな感想があった。 <p>(2) 児童生徒の学習意欲を向上させる観察・実験のための理科室整備</p> <p>① 実験観察教材・情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の内容の成果として、各学校において理科の授業が円滑に行えるように配布や貸し出し等を行った。 <p>② 教育情報センターホームページ内の理科関係データ更新・追加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラネット「理科なび」の内容を精査し、最新の情報が伝わるように更新した。 <p>③ 「薬品管理マニュアル」（令和2年3月改訂）の周知と活用を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月改訂の周知と活用のために、初任者研修や理科基礎技術研修講座の内容の一部に取り上げた。 <p>④ 学校が保管する薬品の管理状況の調査及び指導・助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9校を訪問し、理科室・理科準備室の状況について確認し指導・助言を行った。 ・以前指導した学校に訪問したところ、改善された状況が続いている学校があった。

	<p>(3) 教員の指導力および児童生徒の学力向上を図る事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップ研修講座第1・2回目を子ども向けイベントのサイエンスサマーとあわせて実施した。サイエンスサマーの講師を小学校理科研究会に依頼し、コア・サイエンス・ティーチャー（以下「CST」）を含む7名が行った。受講者の報告書からは、指導技術向上に関する記述が多くみられた。第3回目は、12月24日、中学校のCSTを講師に実施した。経験年数の少ない中学校教諭が多かったので、授業づくりについてよい学びの場となった。 ・サイエンスサマーを実施し、CSTの指導のもと5つの理科ブースに分かれ充実した学習支援を行った。 ・児童・生徒研究集録を教育研究所ホームページで公開することで、サイエンスサマーに参加した児童・保護者や自由研究に取り組もうとする児童生徒が見て、研究のまとめ方の参考として活用できるようにした。今年度は、70点の出品があった。 ・土曜科学教室を年間8回計画・実施した。本年度の途中に、マチコミメールで案内を配信したところ、募集人数が増えた。内訳を見ると、初めての応募者だけでなく、サイエンスサマーに参加した子どももいた。理科に触れる機会を増やすことで、理科に対してさらに興味を持って参加する様子がうかがえた。保護者からは、「理科の基本を学ぶことができる」、「授業で扱っていない内容に触れていてよい」、「毎回楽しみに参加している」等の感想が多くあった。
課題	<p>1 授業支援・学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、専門的な知識や経験がないままに理科の授業を担当するケースがある。教育指導課と連携し、担当する教員が安心して理科授業や実験・観察に取り組めるよう、受講者のニーズに合った研修を企画・運営していく。また、小学校・中学校理科研究会と連携を図り、学習指導要領で示されている教科の目標に近づくような授業の充実につなげる。 ・令和8年度からのリニューアルを控えている博物館と連携して、学芸員による専門的な知見が学習支援につながるように、研修を企画・運営していく。 <p>2 学校における薬品管理及び安全指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の薬品管理確認を中心とした理科室環境について学校訪問を行うと、適切に薬品が管理されていない、何年も使用されていない薬品が置かれている等の学校があった。今後も学校訪問をして、薬品管理を含む理科室環境の整備について、薬品の適切な管理を促していく。 ・安全指導について理科の研修ごとに参加者に伝え、事故を未然に防ぐよう具体的な事例を挙げて啓発をしていく。

担当	【研修・調査研究担当】一調査研究及び資料・情報提供一
目標と方針	<p>4 教育に関する専門的及び技術的事項の調査・研究を推進し、その成果を還元する</p> <p>5 市内外の教育に関する研究や資料、研修図書等を収集し、発信する</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>4 市内及び他機関との連携による研究及び資料収集</p> <p>5 教育に関する資料・情報の収集・発信</p>
成果	<p>4 市内及び他機関との連携による研究及び資料収集</p> <p>(1) 市内研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期研究員として、池上中学校の横手謙教諭が「心理的安全性を高める学級経営による学校適応の実証的研究 一学級目標を手がかりとした「安心して挑戦できる風土」づくりの探求一」を研究テーマとし、池上中学校教員を対象に、教師の働きかけがどのように生徒の心理的安全性に寄与しているかに焦点を当てて研究を行った。本年度は、アドバイザーとして、横浜国立大学教職大学院 藤原 寿幸 准教授にご助言をいただき研究を進めている。令和7年度研究成果発表会は、令和8年3月4日(水)を予定している。 ・本年度から神奈川県教育研究所連盟教育研究発表大会は発展的解消となり、神奈川県立総合教育センターが主催する「かながわティーチャーズデイ」において、横須賀市長期研究の成果を発表した。 「全国学力・学習状況調査データの利活用に関する研究～認知過程分析を主としたワークショップから、授業改善に迫る教師に焦点をあてて～」(提案者：令和6年度年度長期研究員 本間 諒介 教諭) ・学校教育賞を広く周知し、本年度は研究部門、実践・企画部門にそれぞれ1点ずつ応募があった。それぞれ奨励賞を受賞した。 <p>(2) 研究所連盟との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国教育研究所連盟及び関東地区教育研究所連盟の各発表大会に出席し、国、他県、他市町村の資料を収集し、当研究所の運営や調査研究の参考にした。 <p>(3) 横浜国立大学との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜国立大学主催の長期研究員講習会など教職大学院主催の講習会等に参加できる体制を整えるなど、連携を進めた。 ・神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市教育委員会と横浜国立大学教育学部との連携協議会に参加し、各自治体からの情報収集に努めた。 ・横浜国立大学教職大学院非常勤講師として、教育研究所指導主事1名を派遣した。 ・独立行政法人教職員支援機構「横浜国立大学センター」で、研修担当者を対象にした研修が5回開催された(1月16日時点)。指導主事が参加し、今後の研修の在り方について知見を広げた。 <p>5 教育に関する資料・情報の収集・発信(令和7年12月26日時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度前期分として、33冊の図書と1本の教育用DVDを購入し、累計として蔵書は27,368点、教育ビデオは195点、DVDは109点になった。また、保管している市内各学校や各地の研究機関・大学・学校・出版社等から寄贈された紀要及び研究発表資料は85点増え、26,681点になった。 ・本年度12月までに、図書の貸出は298点、DVDの貸出は9点、資料の貸出は0件、問い合わせ・相談等は17件であった。 ・イントラネットの内容を整理し、情報の更新を行った。 ・昭和100年／戦後80年記念として、「昭和の教科書展」を実施した。延べ119名の来場があった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度の長期研究員の成果について、より多くの学校に伝わるよう発信していくこと。 ・学校教育賞の応募件数向上を目指し、更なる周知に努めること。 ・神奈川県教育研究所連盟等、他地域との連携をよりいっそう深めた調査研究を進めていくこと。 ・学習指導案など様々な教育コンテンツの収集、作成、発信等、その在り方を検討していくこと。

担当	【人権教育担当】
目標と方針	<p>1 教職員の人権意識の向上を図り、人権教育を推進する。</p> <p>(1) すべての学校すべての地域において、人権尊重の精神の涵養を目的に、組織的、計画的に推進されるよう、推進体制の整備・充実を図り、積極的な推進に努める</p> <p>(2) 学校教育においては、児童生徒の発達段階に即しながら、各教科等の特質に応じ、学校の教育活動全体を通じて、人権尊重の理念について理解を促すように努める</p> <p>(3) 指導者の養成及び研修については、計画的に実施し、資質の向上に努めるとともに、その活用を図る</p> <p>(4) 推進に当たっては、学校や地域の実情等に応じ、人権に関する現状を正しく把握して取り組むとともに、教育の中立性の確保に努める</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 研修の実施</p> <p>2 人権移動教室（国際人権センター主催）の実施</p> <p>3 神奈川県教育委員会主催人権教育研修への参加</p> <p>4 人権関係諸団体との連携</p>
成果	<p>(1) 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての基本研修において、経験年数に応じた内容で、人権教育の研修を計画、実施した。 人権教育担当者研修において、人権教育の基本理念について各学校担当者に研修を行った。また、第2回は横須賀市人権施策推進指針の人権課題の一つである、「外国人」の人権課題をテーマとして、在日朝鮮人の方を講師に招聘し研修を行い、人権教育について理解を深めることができた。 人権指導者養成研修は2年目として受講者が各学校で研究授業を行った。 人権教育訪問研修は、本年度6校から依頼があり、人権教育の基礎知識や子どもの権利について研修を行った。 <p>(2) 人権移動教室の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度は5校で実施、子どもたちが人権について考えるきっかけとなった。 <p>(3) 神奈川県教育委員会主催人権教育研修への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 神奈川県教育委員会が主催する人権教育研修への参加を各学校に周知し、参加できる体制を整えた。 本年度から神奈川県人権教育研究委託校として、「互いに認め合う児童の育成～人権意識の向上を目指して～」をテーマに、田戸小学校が2年間の人権教育の研究を行っている。1年目の本年度は、外部講師を招聘した校内研修と、校内研究授業を行った。教育研究所からも指導主事が参加し、指導助言を行った。 <p>(4) 人権関係諸団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権関係諸団体が行う研修や講演会に参加し、人権課題の実情について情報を収集した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 教員の人権意識が、子どもたちの人権意識に大きく影響を与える。このことを常に念頭に置き、今後も教員研修の充実を図っていく。 神奈川県人権教育委託校として、次年度田戸小学校が研究発表を行う。多くの学校に還元できるよう、支援をしていく。

担当	【管理運営係】
目標と方針	<p>【目標と方針】</p> <p>1 教育研究所業務の円滑な事務事業・連絡に努める</p> <p>(1) 適正で確実な予算執行に努める</p> <p>(2) 所内各担当及び関係各課との円滑な連絡調整に努め、的確な情報収集・伝達・作業依頼及び集約等を行う</p> <p>(3) 法令遵守及び的確な事務処理方法について率先して取り組み、効率的に業務を進める</p> <p>2 施設の円滑な管理・運営に努める</p> <p>(1) 所内外の環境整備に努め、安心・安全な施設管理を行う</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 所内の円滑な事務事業及び予算執行調整・連絡</p> <p>(1) 教育研究所全体の予算執行の的確な管理を行う</p> <p>(2) 教育委員会定例会及び市議会に関する情報収集・伝達・作業依頼及び集約等を行う</p> <p>(3) 関係各課との円滑な連絡調整を図り、各種報告、連絡、書類作成及び発信事務の遅滞なき履行を図る</p> <p>(4) 事務及び財務等に関する規程を周知し、業務全般のコンプライアンスについて徹底を図り、効率的な事務処理を率先して行う</p> <p>2 施設の円滑な管理・運営</p> <p>(1) 所内外全般の環境整備及び美観維持に努める</p> <p>(2) 施設の老朽化に対応し、工事と修繕を迅速・的確に進め、快適な研究環境を提供する</p> <p>(3) 研修用備品等の更新を行う。また、棚卸を行い不要な物品を適正に処分する</p>
成果	<p>1 所内の円滑な事務事業及び予算執行調整・連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会定例会及び市議会に関する情報収集・伝達・作業について、所内各担当及び関係各課との円滑な連絡調整を実施した。 ・各種報告、連絡、書類作成及び発信事務について、所内への依頼及び取りまとめをすることで、遅滞なく履行ができた。 ・事務のDX化の観点から、細部の改善を実施した。 <p>2 施設の円滑な管理・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度及び7年度は、大規模工事は行わなかったが、施設の老朽化や改良に伴う様々な修繕を実施した。 ・敷地内の植栽管理や簡易な補修、側溝や空調フィルターの清掃、玄関前の枯れ葉掃除など、施設の維持や美化のための活動を職員自らが行った。
課題	<p>○ 教育研究所内の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当教育研究所は築40年を超えたが、市の公共施設保全計画および施設管理計画において、目標対応年数70年を目指し、将来にわたって継続使用することが計画されている。 ・令和5年度までの5年間で大規模な改修工事を実施したが、建物の細部における破損や不具合は依然として発生している。 ・今後も施設利用者の安全を確保し、快適な利用環境を維持するため、長期的な視点に立って適切な修繕計画と予算の確保を進めていく。 ・長年の蓄積による不用物品も散見されるため、徐々に処分を進める。

担当	【教育情報担当 ICT 活用推進担当】
目標と方針	<p>【目標と方針】</p> <p>1 学校における「教育の情報化」を推進する</p> <p>(1) 1人1台端末の活用を推進する</p> <p>(2) 校務処理場面における「教育の情報化」につながる研修を充実する</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 学校における「教育の情報化」の推進に係る各種研修</p> <p>(1) 1人1台端末の活用の推進に係る研修</p> <p>① ICT 活用実践研修講座 (選択研修)</p> <p>② パワーアップ研修講座 (選択研修)</p> <p>(2) 校務処理場面における「教育の情報化」の推進に係る各種研修</p> <p>① 新任教頭を対象とした校務支援システムに関する研修 (指定研修)</p> <p>② 校務支援システムに関する研修 (選択研修)</p>
成果	<p>1 学校における「教育の情報化」の推進に係る各種研修</p> <p>(1) 1人1台端末の活用の推進に係る研修</p> <p>① ICT 活用実践研修講座 (選択研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミライシードの活用、Google アプリの活用について研修をオンラインにて行った。 ・操作に不安のある教員を主な対象とした「超初心者向け」「初心者向け」研修を充実させるとともに、参加者の希望に合わせてオンライン型と対面型を併用して実施した。 ・授業における具体的な活用例の紹介を取り入れ、日常の授業で活用しやすい内容とした。 ・情報モラルについては、本年度より各学校1名が参加する研修として実施し、児童生徒への情報モラル教育の充実を図った。 <p>② パワーアップ研修講座 (選択研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オクリンクプラスの操作研修を4回、ドリルパークの管理機能に関する研修を1回実施した。 <p>③ 要望に応じた研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育研究会 (1人1台端末の活用) ・校内研修会 (1人1台端末・電子黒板の活用) <p>④ 平常時における1人1台端末の持ち帰りの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が学校外でも1人1台端末を活用し、主体的に学習を進められるよう持ち帰りを実施した。 ・持ち帰りの活用例に加え、実施単位や実施時期の例を1人1台端末ガイドラインに明記し、各学校が取り組みやすいよう整理して示した。 ・1人1台端末の持ち帰りに関する各学校の取組事例等について、情報共有を行った。 <p>⑤ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務機からの Google Workspace for Education へのアクセスを一部開放し、1人1台端末とデータ等のやりとりを可能にした。 ・ICT 担当者会において、1人1台端末の活用や管理について確認をした。 ・1人1台端末活用に関する問い合わせについて対応をした。 ・ICT 支援員派遣委託業者と月1回の打ち合わせを実施し、学校の実態から必要な支援について整理した上で、ICT 支援員の取組に反映させた。

	<p>(2) 校務処理場面における「教育の情報化」の推進に係る各種研修</p> <p>① 新任教頭を対象とした校務支援システムに関する研修（指定研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの操作を習得する研修を行った。 <p>② 校務支援システムに関する研修（選択研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教諭、総括教諭、管理職に対応した校務情報化研修を行った。 ・10月以外はすべてオンライン実施し、校務支援システムの操作について時期に合わせた内容で研修を行った。 <p>③ 健康診断票作成研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全16校への要請訪問により、健康診断票の入力等に関する操作研修を行った。 <p>④ その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの利用マニュアルの作成・修正およびイントラネットへの掲載・更新を行った。 ・横須賀市立小・中学校の通信簿について、依頼をもとに修正及び校務支援システムへの登録を行った。 ・令和7年度の調査書に対応するため、教育指導課と連携し内容の確認、必要に応じた修正を行った。 ・校務支援システムの「お知らせ」機能を試行運用し、教育委員会から各学校へ発出するメールの一部を削減することで、学校の多忙化軽減を図った。実施後の聞き取り等で、さらなる活用を求める意見が多く、取組に対する満足度も高かった。 ・欠席等連絡ツールとして導入したマチコミの一斉送信機能を活用し、教育委員会等から児童生徒の保護者へ連絡する内容のうち、従来紙で配布していたものについて、データで配布可能なものはマチコミによる配信に切り替えた。 ・教育政策課と連携し、生成AI（Google Gemini・NotebookLM）に関する研修を行った。 ・学校情報化推進部会の開催 教育の情報化を推進するための検討組織として、学校情報化推進部会（第1～第5分科会、第4分科会は休会中）を開催し、校務支援システムや校務用PCの仕様・運用、学校HP、保健機能（健康診断票・訪問研修）、授業におけるICT活用等について協議した。
課題	<p>1 学校における「教育の情報化」を推進する</p> <p>(1) 1人1台端末の活用推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末の持ち帰りは各学校で順次実施しているが、学びの連続性の確保と情報活用能力の育成を図る上で重要であることから、今後も各学校への聞き取りを行い、取組事例の共有等を通じて一層の推進を図る。 ・パワーアップ研修講座は全5回平日16時に開催したが、参加者数は想定を下回った。次年度は参加者が増えるように検討をする。 <p>(2) 校務処理場面における「教育の情報化」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システムの活用検証を継続し、学校現場に即した活用方法を研修等で周知していく。また、研修回数を増やすのではなく、オンデマンド等、学校の先生方が知りたい情報を知りたいときに確認できるような方法について検討していく。 ・将来的な環境を見据え、教職員の負担軽減につながる機能・運用の方向性を整理し、より良いシステムの検討を進めていく。

担当	【教育情報担当 ICT 環境整備担当】
目標と方針	<p>【目標と方針】</p> <p>1 学校情報基盤を保守管理し、学校における教育の情報化を推進する</p> <p>(1) よこすか教育ネットワーク (YKNet) 環境の整備・保守管理</p> <p>(2) 各学校に配備している ICT 機器の整備・保守管理</p> <p>(3) 校務用利用者 ID、パスワードの管理</p> <p>(4) GIGA スクール構想に関する環境の整備・保守管理</p> <p>2 横須賀市教育情報センターホームページ等を保守管理し、教育委員会内外への情報発信を推進する</p> <p>【具体的な活動】</p> <p>1 学校情報基盤の保守管理</p> <p>(1) よこすか教育ネットワーク環境の稼働を維持するため、サーバ類の更改、保守管理を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク機器、管理サーバ等の調達業務と保守管理を行う ・ネットワークの増強を行う <p>(2) 各学校に配備している ICT 機器関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用パソコン、校務用パソコン等の調達業務と保守管理を行う ・中学校の電子黒板を保守管理する ・総合高校の CALL システムを更改する <p>(3) 校務支援システム関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援システム保守事業者と調整し、契約事務を行う ・教職員・児童生徒の情報を登録し、名簿管理を支援する <p>(4) GIGA スクール構想関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末、管理サーバ等の調達業務と保守管理を行う ・ネットワーク機器の更改を行う <p>2 横須賀市教育情報センターホームページ等の保守管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横須賀市教育情報センター及び教育委員会ホームページの保守管理を行う ・「よこすかスクールネット (市立学校のホームページ集)」の保守管理を行う
成果	<p>1 学校情報基盤の保守管理</p> <p>(1) よこすか教育ネットワーク環境の稼働を維持するため、サーバ類の更改、保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の Windows ユーザーメンテナンス等 ・各種サーバ類の調達・更改・バージョンアップ ・ネットワークの増強・調達・更改・バージョンアップ <p>(2) 各学校に配備している ICT 機器の調達業務と保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育用パソコン、校務用パソコン等のライセンス調達 ・校務用パソコン・プリンタの調達・更改 ・学校代表機パソコン等の保守管理 ・中学校の電子黒板の保守管理 ・総合高校 CALL システムの更改 ・中学校・ろう学校・養護学校に電子黒板を追加導入 <p>(3) 校務支援システム関係の保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員・児童生徒の校務支援システムへの登録 ・各サーバの障害対応 <p>(4) GIGA スクール構想に関する環境の整備・保守管理を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の共同調達協議会への参加及び1人1台端末の共同調達 ・1人1台端末等の修繕、管理サーバ等のバージョンアップ ・ネットワーク機器の調達・更改

	<p>2 横須賀市教育情報センターホームページ等の保守管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イントラ掲載情報の更新を随時行った。 ・学校ホームページの掲載内容や更新サイクルに関して適切に更新されているかチェックを行った。
課 題	<p>1 1人1台端末整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県の共同調達協議会に参加して共同調達を行い、令和8年度予算も確保できる見込みであるが、学校の授業への影響が可能な限り最小限となるように夏季休業期間で端末更改の完了を目指し、作業日程等、順次調整を進めていく。 <p>2 GIGA スクール用ネットワーク整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度から令和6年度にかけて、ネットワークの増強を実施したところであるが、当初想定通りデジタル教科書などの本格的な活用に十分耐えられるかどうか引き続き注視していく。 ・令和2年度から3年度に整備したGIGA スクール用ネットワーク機器について、令和7年度に中学校とろう学校のネットワーク機器を更改したところであるが、令和8年度に小学校と養護学校のネットワーク機器が更改時期を迎えるため、順次更改を実施していく。 <p>3 1人1台端末の予備機について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、配付している1人1台端末については、故障時に修繕を実施していたが、新端末は予備機が補助金の対象となったため、1年間の標準保証が経過した後は、原則、予備機で対応していくこととなる。故障が頻発するなどした場合は予備機が枯渇する可能性もあるため、現行端末のうち、バッテリー交換済みかつ状態の良い端末を各校数十台程度残して予備機として再配付するなど、継続して授業に必要な台数を確保していく。 <p>4 電子黒板の導入について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校等への電子黒板の導入に向けて、空きスペースがなく電子黒板が入らない教室がないか事前に調査したところ、3校24教室で工事が必要なことが判明したため、学校管理課と連携し、必要な工事を実施したうえで、小学校へも電子黒板を順次導入していけるよう、検討していく。 ・中学校の35人学級化に伴う学級数の増加対応とともに、ろう学校と養護学校の中学部以上に電子黒板を追加導入することとなったが、中学校に当初導入した機種の後継機種となるため、活用方法や操作研修など、ICT活用推進担当と連携して対応していく。